

平成18年度 教師海外研修（派遣国：サモア）実践報告書

1. タイトル 「つながる。認め合える。一つになれる。」より 『私が住みたい夢の国』
2. 氏名 前島 裕
3. 学校名 大東市立南郷小学校 担当教科 全教科
4. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数 6 時間
5. 対象生徒・学年 5 学年 対象人数 2 クラス 70 名 (35 名,35 名)
6. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・国の違いを、環境・習慣・文化から捉え、それにより、人々が大切にしていること・あたりまえにしていることが違うという視点を持ち、違いを認め合う心を養う。
- ・世界の国から日本を見つめ、日本の良さや私たちの何気ない幸せなことに気づく。
- ・「発展」と言う言葉から、日本の歩みをみつめる。

(2) 授業の構成案

	時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
世界から日本をみつめよう	1 限目 テーマ：私の夏の思い出、素敵な人たちの出会い。 ねらい：サモアへの興味を持たせる	(1) みんなの楽しい思い出を共有する。 (2) 「素敵な人との出会い」に話を移し、チップスや、知らない国の名前から、サモアに興味を持たせる。	(1) サモアチップス
	2 限目 3 限目 ・「もし、世界が 100 人の村だったら」 ねらい：世界にはいろいろな国があり、それぞれの国がつながりを持っていることを知る。	(1) 白地図から、日本の位置と、名前を知っている国をみつける。 (2) 世界には、200 近い国があることを知り、日本がアジアに属することや、他の地域とのかかわりに気づく。	(1) 世界人口白書 (2) 世界白地図 (3) ポストイット 等 (1) 役割カード (2) 大陸ロープ 等
私が住みたい国ってどんなところ・・・	4 限目 ・サモアー環境編 ねらい：国の違いから、人々があたりまえにしていること・大切にしていることが違うと言う視点を持つ。	(1) 写真を見て、旅の様子をつかむ。 (2) 国の違いを三点から捕らえる。 (3) スライドから感じたことを伝え合い、サモアのイメージをつかむ。	(1) PowerPoint スライド (2) ワークシート
	5 限目 ・サモアー習慣編 ねらい：サモアと日本など、日頃見えにくい“つながり”に気づく。	(1) 前時をふりかえる。 (2) 日本とのかかわりをつかむ。 (3) 日本との違いに気づく。	(1) PowerPoint スライド (2) ワークシート
	6 限目 ・サモアー文化編 ・ビデオから見えること ねらい：住みたい国のイメージを言葉に表す。日本の良いところに気づく。	(1) 文化的背景から見えることを話し合う。 (2) 自分が住みたい国のイメージを言葉や絵で表す。 (3) 日本を見つめ、日本に住んでいて良かったと思うことをみつける。	(1) PowerPoint スライド (2) ビデオ (3) ワークシート

7. 授業の詳細

1 限目

教材：サモアチップス

内容：・児童の夏の思い出をたずねる。

- ・サモアに行ってきたことを再び伝え、「楽しかった」「サモアの人たちが素敵だった」「いっしょに言った人たちが素敵だった」など、率直な感想を伝え、出先に何があったかよりも、出会った人の思い出が印象に残ることって多いと思いませんかと投げかける。
- ・サモアらしいお土産として、「タロイモ」「パンの実」「バナナ」のチップスを選んだ理由を、主食・サモア産のもの・包みから感じることを中心に伝え、交流する。

2、3 限目

教材：新・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」

内容：・世界地図から、世界にはいくつの国があるのかたずねる

- ・世界の人口、地域の名前、を投げかけ、確認し、名前だけでも知っている国に印をつける。
- ・各国の姿の違いを、人々の様子から伝え、座り方、トイレ、食べ方、一日の過ごし方など、子どもたちが知っていることを引き出し、共有する。また、今はどうかねとたずね、移り変わっていくことにも目をむけさせる。
- ・人口の増加グラフより、今も次々と人口が増えていることに気づかせる。
- ・世界がもし100人の村だったらをみんなで読み、世界をのぞく観点到に気づかせる。

-
- ・役割カードを配り、役割になりきってほしいと伝える。
 - ・順番に進めて行き、気づきを共有する。
 - ・大陸テーマ、日本の場合と進めていき、世界における日本の位置をつかませる。

4 限目

教材：PowerPoint スライド

内容：私が住みたい夢の国「サモアー環境編」

- 世界にはいろいろな国があり、それぞれ

①環境（場所や気候など） ②習慣（毎日していること） ③文化（歴史や伝統）

に違いがあり、だから人々が

- ・大切にしていること ・あたりまえにしていること

がちがう。 →では、「日本は?」「サモアは?」と視点を定めた。

- 『サモアと言う国をのぞいてみよう』 ←

- ・ 旅の思い ・ 時間的な距離
- ・ 地図的な距離とルート ・ 出迎えてくれたサモアの人々

・ サモアの地図

・ 様子フォトランゲージ

（海・家・椰子・山・プール・滝・海岸・都市・乗り物・水・料理・人々）

・ 「住みたい国のイメージー環境編」 イエスノータイム ※資料 参照

5 限目

教材：PowerPoint スライド

内容：私が住みたい夢の国「サモアー習慣編」

- 世界の国を、視点を大切にして、みつめよう。

↓

- ・ 食事（タロイモ、ヤムイモ、パンの実 → 主食はイモ）
（バナナ、レッドバナナ、）

(キャベツ、白菜、お米)

↓

レストランの食事。ホームステイでの食事。

- ・ 服装 (Tシャツ、サンダル、ラバ、リュック、警察官、)
- ・ 乗り物 (バス)
- ・ 制服 (制服を着ます。子どもの様子・・・笑顔、やんちゃグループ、歌、はだし)
- ・ 笑顔 (とにかく笑顔。サモアの人好きになっちゃった。)
- ・ トイレ (ホテルの、レストランの、学校の、お客さんようだって。)

↓

サモアあるなしクイズ

「デジタルカメラ」・・・持っている人を見かけませんでした。

が、写真屋さんがあり、結婚式のような写真が飾られていました。

日本では、子どもや、家族の写真が多いですね。

「蚊取り線香」・・・あります。

では、このスプレーは？

「マクドナルド」・・・あります。

サモアまで来て、マクドナルドを食べなくても良いと感じました。

「ケンタッキー」・・・見かけませんでした。無いと思います。

「コーラ」・・・あります。

+ ファンタ、ペプシ

「温かい飲み物」・・・あります。

新聞紙の上に、葉のまま。

日本では、包装しているのがあたりまえと感じてしまいますね。

+ ミロ・・・マイロです。

+ カップラーメン・・・朝食に良く食べるようです。カップめんをなべで温めた後、他の物を入れます。煮込むような味付けでしょうね。

「酢 (す)」・・・あります。

「しょうゆ」・・・あります。では、

「わさび」・・・あります。

「マヨネーズ」・・・日本では？ そう、チューブですね。

「ドレッシング」・・・みかけませんでした。無いと思います。家で作るのかな。

「洗剤」・・・あります。石鹼みたいですね。そう、粉では無いですね。

洗濯機や、家電製品も売っています。なんと、液晶テレビも。

どれぐらい使われているのか、どれぐらいあたりまえにあるのかが、問題ですね。

「整髪料」・・・瓶入りココナッツオイル。

スプレーや、ムースも売ってはいました。

「クーラー」・・・ホテル、教育省、日本製のものもありますね。

ホテルには、防犯カメラも。

私が持っていった電気製品。日本人は、電気を使う人たちですね。

「かみおむつ」・・・ありました。子供服も売ってましたよ。

各家にはミシンがあるようです。以前にも話した通り、多くのものを作るのですね。かわいい服だけど、大きすぎるから、調整しようとか。お母さんの服を、別の人が着れるようにとか。

日本には、たくさんのサイズで売られていますね。サモアはどれくらいだったかな。

見て来られなかったな。

「給食」……ありません。 校内に売店。 食べ物を持ってまつ親。

「レンタルビデオ」……ありません。 と思つたら

「DVD」がありました。 みんなの知っているのもありますね。

6 限目

教材：PowerPoint スライド

内容：私が住みたい夢の国「サモア文化編」

- 世界の国を、視点を大切に、みつめよう。



『海をわたってきた』……「舟」……船が身近に感じる国でした。サモアでみたことエピソード。

「からだに」……タトゥー。記念として。大人になったら。

「フィアフィア(お客さんをおもてなし。そして……)」……おもてなしの心と、
マタイ制度。ファイヤードダンスの歴史。

『自然と共に生きてきた』……「火」……火おこしは今も。

「椰子(やし)」……捨てる場所が無い。日本だと?

「家畜(かちく)」……食べるための動物 さばくのも家で。日本の家畜
の歴史。“かわいそう”という思いとの葛藤の交流。

「亀(かめ)」……亀も身近に感じる国でした。以前は……

「ウム料理(うむりょうり)」……合理的な調理。

『話し合い、社会ルールをつくって生きてきた。』……「マタイ制度」……伝え合う歴史。順番が明らか。

「教室では……」……罰。習熟度別。

8. 児童の反応・評価

国の違いを、肌や人種、髪の毛等から捕らえていた児童が多かった。子どもたちの呟きを拾い集め、教師の視点を伝え、「いろいろな人が一つの国に住んでいるね。」と結論づけてくれた。知らないだけに・見えないだけに、違いを「変だ」と表現する傾向もこの間に見受けられたので、サモアの話を通して、視野を広げるには、適した時期と感じた。

サモアの写真フォトを、「〇〇に似ている」と、日本に見られる姿に結び付けていた。とりわけ、海には興味をもったようで、「日本には沖繩(周辺)のようなきれいな海もあるし、汚れた海もある。」との発言から、日本が様々な姿を持っていることに興味を持った。ところで、あなたたちが汚れていると言っている海は、いつ頃まできれいだったの。どうやってよごれたの。とたずねると、「きれいなときがあったはず。」
「なぜだろう。きっと……」と次々に語り始めた。

都市の姿からは、驚きは少ないようだった。(日本との違いが少なく感じていると思われる。)しかし、学校の校庭が草原のようになっていることをうらやましく思っていた。広さもまたうらやましい様子。「もし、南郷小学校の校庭が、そのようになったら……」と語り始め、実生活に結びつける目がかかなり膨らみ始めた。

(ただし、デメリットに関しては、この時点ではつぶやきが少なかった。)

水の話やあるなしクイズより、サモアの姿がより見え始めると、興味を膨らませる姿と共に、(便利でない部分を)「それはちょっとこまるなあ」とつぶやく児童が増えてきた。「雨水も平気だけど毎日だとこまる。」
「お湯がいい。」「物があるけど、少なそうにも見える。」「いろいろなものが食べたい。」など、「やし(ニウ)が飲みたい。」「料理がおいしそう。」などの言葉に反して出てくるようになった。

文化の話は、歴史的背景と共に伝えた。うなづきながら聞き、また、つぶやき続けていたが、しだいに「自分がファイヤードダンスをするとすると……」「椰子の実を毎日自分でとるとしたら……」あたりは、賛否

を交わしていた。田舎がいいといっていた児童は、環境のよさを中心に訴え、中には、ゆっくりと自分で何でもするのもいいと言う児童もいた。逆に環境が良くて、乗り物や、食べ物などに、便利さや多さを要求する意見もでた。とりわけ、家畜を食べることについて、「スーパーで売っているようになっていたほうがいい。」「魚はさばけるけど、豚はちょっとなれない。」など、その違いを示した。「かわいそう」「気持ち悪い」と伝える児童に日本の場合はと尋ねると、誰からも声があがらず、首をかしげながら考えていた。

マタイ制度には「極端なルール」と言う児童が多かった。習熟度別の教室については「いろいろな子と友達になりたいから、日本のようなほうがいい。」と言う声が大半を占めた。

9. 所感・反省点・今後の改善案

違いを知る上で、ゆったりとした気持ちでスタートさせたことは、プラスイメージから見始めることができ、良かったように思う。それでもしだいに、良いなと思うところ、今の生活のようなほうが良いなと思うところに思考が及ぶにつれ、比較による結論におちいらず、どんな国が自分にも一緒に暮らす人にもいいかなあとかくりかえし問いかけた。

また、「あたりまえにしていること・大切にしていることが違う」という視点から、クラスの中でもそれぞれ考えが違うはずだし、違っていいよねと繰り返した。とりわけ、「水に対する考え」「便利と不便について」「お手伝いと、日課」など、思いに差がひらく場面では、みんなが自分の思いに素直に向き合えていれば、それでいいと伝え、みんなでそれぞれの意見を共有できるよう、自分に素直に向き合えるよう声をかけながら進めた。

本当は、本指導過程の最終にある「私の住みたい国のイメージをはっきりさせる。」「日本に住んでいて良かったと思うこと」でひとまとめして、さらに、「海」、「国際協力」「日本」へ“私たちができること”に結び付けたかったが、本学期では、その入り口を開くことを大切に、進めないことに決めた。終わった時点では、それが良かったように思う。しかし、3 学期や、6 学年時に徐々に実行行動を模索し、実行行動を体験することは、実生活に結び付けられる児童が出てくることや、その行動の大変さを感じるこもいれば、意識変換が必要なことにせまれるし、学習の発展としては大切にしたい。

本指導目的が、児童の視野を広げ、見る目を養うとするならば、自給自足に対して、日本は作ってもらったもの、してもらったことをお金と交換していることに目をむけさせ、貨幣制度、加工貿易産業社会、税、国際間交流に発展察せる事もできた。つまり、自分たちの社会を見つめる目として学習を進めたら、私たちにできることの前に、もう1 つステップをつくることができたかもしれない。

総じて、これからも開発教育を続けて行きたいと思える取り組みであった。期に応じて、セミナーに参加したり、J I C A の活動と児童とも結びつけたり、新たな教材に取り組んだりしていきたい。